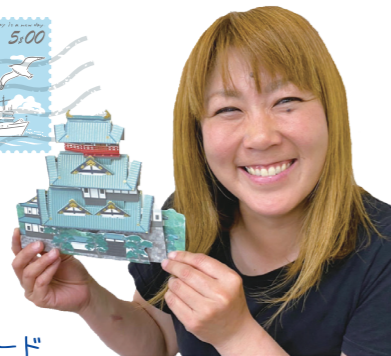


送らせて 頂きましたっ~

コロナ渦で、日本に訪問することの出来ない海外のお客様に、少しでも日本の雰囲気を感じてもらいたいと思い「お城」のポストカードを送らせて頂きましたっ! コメントを沢山頂きました。ありがとうございます。まだまだ先が見えない状況ですが、一緒に乗り越えていけたらと思います。コロナが落ち着いたら、日本、大名へ遊びに来て下さいね。



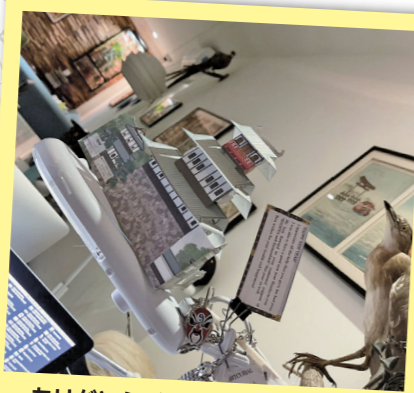
とてもびっくりしました。嬉しくて飾ってます。ありがとうございます!

飾ってもらえてよかったです。落ち着いたら、日本に遊びに来て下さい。



素敵なお城のポストカードをありがとうございます。飾ってみたのですが、どうでしょう?

花台にマッチしていて、とってもオシャレです。喜んで貰えてよかったです。



ありがとうございます。とても嬉しかったから、いつでも見られる所に飾ってます!

喜んで貰えて、とても嬉しいです。落ち着いたら、ぜひ実物を見に来て下さいね。



サプライズありがとうございます! どうですか? コレクションの一部にしてみました。とてもいい感じでしょ?

とってもいい感じですよ! 街の一部としてマッチしてますね! 喜んで貰えて良かったです。

届けますっ! 大和魂 2021年6月 Vol.42

経営理念

有限会社大名は「届けますっ大和魂!」を合言葉に日本の歴史、古美術を発信し、貴方(お客様)の趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します



こんにちは、島谷貴子です。皆様いかがお過ごしでしょうか? 島谷家では、よく子供たちと人生ゲーム、トランプゲーム、ジェンガ、オセロをしています。負けず嫌いが揃っているので勝負になると顔つきが変わります。私も大人気ないと言われるかもしれませんが本気で戦いますっ! つい先日、三女が「昔の人も人生ゲームしとったん?」と聞いてきました。はっきりした答えがわからず、答えることができませんでした。今では「人生ゲーム」、「桃太郎電鉄(ゲーム機)」等ありますが300年以上前にも今のような「双六」はあったのでしょうか?

昔の人も人生ゲームしとったん?



三女

双六とは...

7世紀頃(飛鳥時代)より、中国から伝わりました。サイコロを2つ使い、サイコロの出た目の最高数が「六」、サイコロが2つの為、「双六」と言われています。「盤(ばん)双六(すごろく)」と呼ばれるものから始まり、江戸時代には「絵双六」という日本独自のものへと変化していきました。「絵双六」は、娯楽の為だけではなく、道徳や教訓を伝えるために作られたとされています。

絵双六って、日本が作ったん? すごくない? どんなんだったん?



次女



飛び双六

サイコロの出た目の指定された場所へ飛んでいくもの。

出世双六

江戸時代には身分制度が厳しかった為出世や金銭の成功を楽しむもの。

ちなみに...出世双六には女性版!!があったみたいです。玉の輿に乗って「奥様」と呼ばれるシンデレラストoryみたいな双六。これはいつの時代にも変わらず女性の憧れなんでしょうねっ。

昔から、いろんな双六があったんじゃね、今も進化しとるもんね

そうなんです! 今はお金ではないものに進化しています! 皆様ご存じですか? 今までは、一番上がること、いかにお金を沢山もつか、出世出来るかが勝負でしたが、いかに「インフルエンサー*」になるかが勝負なんですっ! はまること間違いないので、ぜひ一度チャレンジしてみてください。また、他にもこんな室内遊びあるよ等ありましたら教えてください。



長女



進化した「人生ゲーム」



*ユーチューバーやインスタグラマーなどのことで、その中でも他人に対する影響力の強い人の事です。

このコマ(インフルエンサー)を多く集めた人が勝者です。

届けました!!

お年玉 プレゼント

無事にお年玉プレゼント届きました



猪岡様より

検討中と言った段階なのですが、ライブ配信なども考慮し始めたところで何ともタイムリーだなと嬉しくなりました。大名さんエスパーか? などと思ってしまいました。ともあれ感謝感謝です。

かすみなしんとう
和源神道

岡山県井原市下稲木町字金神2434-1

素敵な笑顔のお写真、ありがとうございます!!
いのおか ゆういち うたげんじひでつなりゆうにしゅうはちせい
猪岡 鷹謙様(肩書: 宇多源氏秀綱流二十八世)は、和源神道の神主様です。弊社にも何度か遊びに来てくれていましたが、コロナの影響もあり中々お会い出来ず...ですがwebカメラを使ってお会いできますね♪是非とも今度お会いしましょう!!
楽しみにしています!! コロナ渦ですが、少しでも明るく元気に過ごせる事、皆様のご健康とご多幸を願っております。



中堀

今号の大和魂はいかがでしたか? 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください。お待ちしております。

件名: ニュースレター返信と入力して送信して下さい。



最新情報はホームページ <https://daimyou.com/>

有限会社

大名

広島県尾道市栗原町2-1 3F Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp

TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937

語ります 大和魂

こんにちは。中堀明美です。
前号に引き続き、今号では「天下三名槍：御手杵」について語らせて頂きます。
(天下三名槍…日本号 御手杵 蜻蛉切)



～名前の由来～

戦国時代から江戸時代初期にかけての武将、結城晴朝が倒した敵の首十数個を愛槍に突き刺し、担いで城に帰っている途中、首級がひとつ落ちてしまったそうです。その時の槍の姿が「手杵」のように見え、のちに手杵形の鞘を付けたそうです。



号 御手杵 全長：333.3cm
穂（刃長）139cm（四尺六寸）
拵重量約26.25kg
銘 義助作（長槍の平均重さ、約4kg～6kg程）※焼失の為現存せず

鍛えたのは、室町時代に駿河国（現在の静岡県）嶋田で活動していた刀工「嶋田義助：しまだぎすけ／よしすけ（※五条義助とも称されています）」室町時代中期から江戸時代中期まで代を重ねた刀工一派「嶋田」派の四代目です。

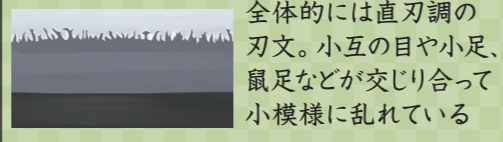
特徴（古文書参考）①三角



②地鉄：空目



③刃紋：小乱



全体的には直刃調の刃文。小互の目や小足、鼠足などが交り合っって小模様になっている

▲中央部で握ることができるようにぐねをもつ手杵（堅（たて）杵（きね））手で持って上下につき、白で脱穀や米つきなどに用いた。この鞘の形状から御手杵と呼ばれるようになりました。

～結城から松平へ～

徳川家康の次男である「徳川秀康」は晴朝の養子となり、「結城秀康」となります。秀康が34歳で没すると、長男の「直忠」は、結城姓を捨て徳川氏のルーツである「松平」姓を称するようになります。結城氏の所領と家名が失われる事態に衝撃を受けた晴朝は、家康に頼みこみ、秀康の五男「直基」に結城氏の家督を継がせました。結局は、直基も松平へ改姓してしまうのですが、家紋は結城氏の物を使い続けたそうです。そして松平大和守家へと伝承されました。



～巨大な鞘～

松平家は、御手杵を大変大切にしていたそうです。新たに手杵形の巨大な鞘が作られ、参勤交代の折には松平家の象徴として、藩主の乗り物の所在を示す馬印とされました。熊毛で覆われた高さ150cm、直径45cm、重量22.5kgと、並はずれた大きさ重さだったそうです。道中で雨が降ると水を吸ってさらに37.5kgを越え、運ぶのも大変だったと言われています。



昭和20年5月25日の東京大空襲にて所蔵庫に砲弾が直撃して焼失しまい実物は現存していません。こんな大きな槍を武器として振り回して攻撃するのは、よっぽどの力と、凄腕ではないと不可能だと思いました。存在感と迫力から、馬印にされたのも納得がいけますね。ど迫力のある槍を実際に一目見てみたかったなあ…と、思っていた矢先に茨城県のA様より前号を見て、お手紙が届きました!!「御手杵のレプリカを展示してある、茨城県結城市・結城蔵美術館の付近に住んでいるので、情報を送ります。写真も撮りましたのでご参考までにお送りいたします。」コロナ禍で足を運べない中、レプリカだそうですが、実際のお写真を拝見できて、とっても嬉しかったです。写真でもど迫力な大きさの槍だと分かりました。なんとも嬉しいお便りを下さり、ありがとうございます!!皆様、コロナが少し落ち着いて、機会があれば足を運んで、タイムスリップしては如何でしょうか?次号では、蜻蛉切について語らせて頂きます♪皆様からの蜻蛉切りに関する情報もお待ちしています。(えへっ)



著作権を考慮し、アップで写せず申し訳ございません。

出典:刀剣ワールド財団(東建コーポレーション株式会社)

ハナエモンの タイムスリップ!

今号も逆境に立ち向かった武将をご紹介致します。今回はこの方にタァ～イムスリップ!

確実な資料が残っていないそうで、通説として出雲国（現在の島根県松江市）に1545年に尼子家家老の家に生まれたとされています。小さい頃から尼子家に仕え、8歳で人を討ち、10歳から弓馬、軍法を熱心に学び、13歳で敵を討ち、手柄を立てたそうです。生涯で66の首級を挙げたとされています。17歳の頃から毛利家が尼子家を滅ぼすために攻め始め、鹿介（幸盛）の奮闘もむなしく22歳の時に、尼子家が

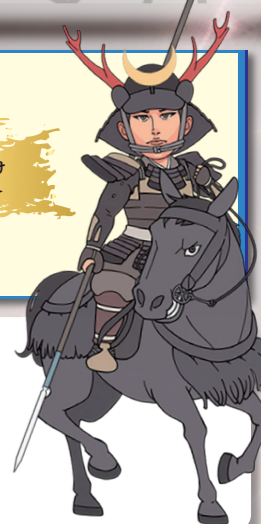
その後、3度にわたり尼子家再興の為に戦った鹿介ですが34歳の時に謀殺されてしまいます。

忠義を貫き通した

山中幸盛

通称：しかのすけ 山中鹿介

やまなか ゆきもり
1545?～1578年 33歳?

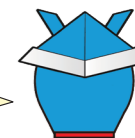


「願わくは我に七難ハ苦を与えたまえ」



～第一次尼子家再興運動～ 23歳の時に、尼子家の遺児・勝久（かつひさ）を大将に各地の尼子家遺臣を集めます。毛利家が北九州攻略に向け兵を向けると、出雲国内16の城を落とし、毛利家の家来を寝返らせ、出雲国、伯耆国（島根県倉吉市）を手に入れます。その後、因幡（鳥取県鳥取市）、備後（広島県福山市）、備中（岡山県総社市）、美作（岡山県津山市）の一部にまで勢力を広げていきます。九州攻略を諦めた毛利家が反撃に出ると26歳の時に敗北し、捕らわれてしまいます。

しかし、なんとか脱出を果たし、次の機会をうかがうことに。



～第二次尼子家再興運動～

28歳の時に但馬国（兵庫県豊岡市）に潜伏していた鹿介は因幡国に攻め込み、拠点とします。5,000の兵が守る鳥取城をたった1,000の兵で落とし、東因幡を手に入れます。31歳の時に、毛利家主力の猛攻を受け撤退、失敗に終わります。

～第三次尼子家再興運動～



今度は織田信長を頼り、織田家の下で再興を目指します。織田軍として、各地へ転戦した鹿介は各地で大活躍をします。

33歳の時、上月城（こうづきじょう。兵庫県佐用郡）に勝久と共に入ることになります。織田家と交戦中の毛利家が大量で攻めると善戦むなしく降伏することに。尼子勝久は切腹。鹿介は捕らえられ、毛利輝元（てるもと）のもとに送られる道中、武勇を恐れられ、殺されてしまいます。

息子が大財閥の創始者

鹿介の息子：幸元（ゆきもと）は、9歳で流浪の身になると叔父を頼りに、伊丹（兵庫県伊丹市）に落ち延びました。そこで、酒造業を始め、日本初の清酒を作ったとされています。江戸時代、日本最大の財閥となった鴻池財閥の創始者：鴻池直文（こうのいけなのおふみ）となっています。



最後の最後まで、忠義を貫き通して諦めることなく戦い続けた山中幸盛。その生き様から、沢山のことを感じさせてもらえました。私も自分を信じて、突き進んでいきたいと思ひます。

